

アメリカの社会改革と労働団体の役割

講演

マサチューセッツ大学経済研究所教授

ジェームズ・ハインツ氏

まともな雇用政策なきアメリカの労働事情

経済危機、非正規雇用と労働団体の取り組み

通訳：藤岡 惇 氏（立命館大学教授） 司会：スコット・ノース氏（大阪大学教授）

アメリカは一昨年秋以降、100年に1度といわれる経済危機に陥り、今年に入っても失業率は10%近くで高止まりしています。失業期間が長期化し、増えている雇用は、パートか派遣・個人請負などの非正規労働者と言われています。

それでいてまともな雇用政策がなく、労働者は無保護で無権利な状態に置かれています。労働組合が比較的強い公務の領域でさえ、財政圧力による人員削減や賃金切り下げの攻撃にさらされています。

今回のつどいでは、関西大学で開催される経済理論学会全国大会のゲスト講演者として来日される、アメリカの労働研究の第一人者、ジェームズ・ハインツ氏をお迎えして、アメリカの労働事情について語っていただきます。

ハインツ氏は、いまどのような雇用政策が求められているかを中心に講演し、労働組合と労働団体の役割やリビングウエイジ（生活賃金）運動の実践例にも触れられると聞いています。

日本にあまり知られていないアメリカの社会改革と労働団体の役割について学ぶ貴重な機会です。ぜひご参加ください。

2010年10月21日（木）

午後6時30分～9時

エルおおさか南館5階ホール

TEL 06-6942-0001

京阪・地下鉄谷町線「天満橋」駅より西へ300m、
「北浜」駅より東へ500m

参加費：500円（資料代）



講演後の質疑応答では、下記の方々をはじめとするフロア発言（講演への感想、質問とご自分の取り組みの紹介など）も予定していますので、ご期待下さい。

- ・中島 聡 さん
青年労働者の取り組み
- ・川西 玲子 さん
公務労働をめぐる取り組み
- ・久松 博行 さん
ダイキン偽装請負事件について
- ・有村 とく子 弁護士
民主法律協会の活動